

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

令和4年4月に全国調査で福岡県の標準化得点以上、県学力調査で県の標準化得点で100以上

3. 指標にむけての取組

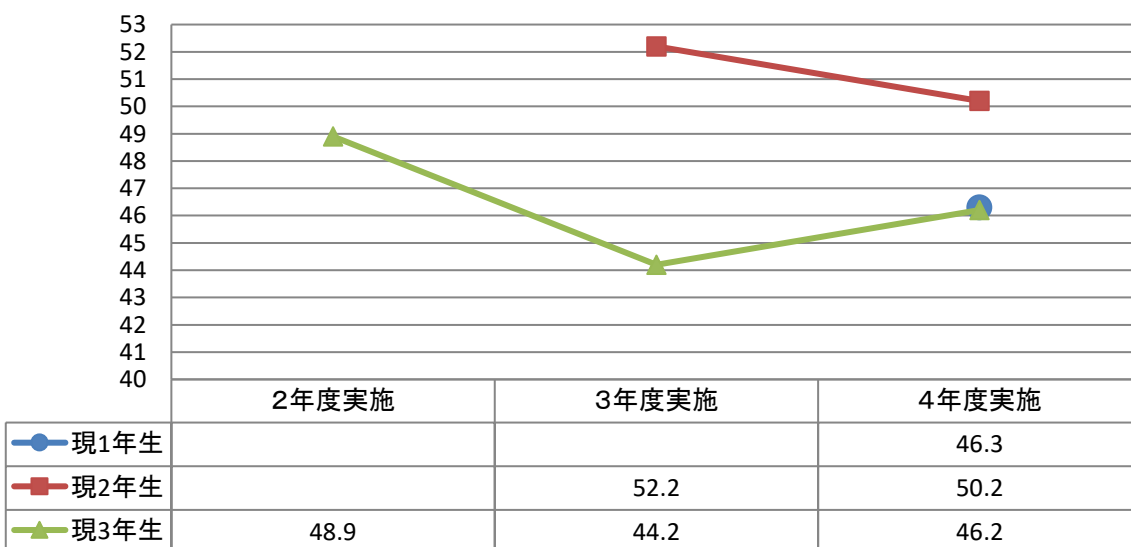
学力向上プランに基づいて、主体的に課題を追求し、根拠をもとにして思考・判断し、考えや意見を表現できる力を身に付けた生徒を育成するために、学習専門委員による学習コンクール(生徒会・鍛ほめ)、放課後補充学習、習熟度別の学習を含む嘉穂中ステップアップタイム(KST)、数学科での習熟度別少人数学習に取り組んだ。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度	4年度
本校(A)	51.3	51.6	50.4	48.5	47.4
嘉麻市(B)	49.3	48.8	48.6	47.1	46.0
(A) - (B)	2.0	2.8	1.8	1.4	1.4
標準偏差値との差 (A) - (50)	1.3	1.6	0.4	-1.5	-2.6

各学年の推移



5. 各学校における分析

- ・2年生の数学習熟度別少人数学習では、生徒の実態に応じて、常時2つのコースに分割し、基礎・基本が定着していない生徒をはじめ、主体的な学習態度を形成する手立てを通して、学力を向上させることができた。
- ・1年生ではKSTの時間に英語の習熟度別学習を行い、生徒の課題に応じた内容を選択し、学習の方法や内容についての指導ができた。
- ・放課後補充学習では、基礎・基本の徹底を行い、時間的な不十分さはあったものの、家庭学習の定着の一助となった。

6. 各学校における今後の取組

- ・学力向上委員会や教科部会等で各種テストの分析と改善策を出し合い、カリキュラムマネジメントを通して、知識・技能の定着とそれらを活用した思考力・判断力・表現力の育成に努める。
- ・小集団への学習支援としては、英語や数学でのTTや補充学習、生徒の実態に応じた習熟度による学習支援を実施する。
- ・本年度も昨年度同様、学習コンクール、嘉穂中学校ステップアップタイム(KST)、家庭学習の充実に向けた支援と指導、英検の校内実施、朝と帰りのホームルーム学習を継続して行う。
- ・全生徒を対象とした教育相談を実施し、各種アンケートの結果から困り感を示した生徒への早期支援、早期介入として小集団学習や個別の支援を充実させる。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。